慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	近時の物価政策論（一）
Sub Title	
Author	気賀, 勘重
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.3 (1921. 3) ,p.311(1)- 328(18)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19210301-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

レヴインスキー著　貴島克己譯

財産起源論

◆最新刊◆

◆四六版◆
◆クロース裝◆
◆定價二圓◆
◆送料十二錢◆

貧富の懸隔、階級の闘爭は悠遠數千歳を通じて存したが、私有財産の存在が激しい論議の中心となつたこと最近一世紀半に於るほど甚しきは無かつた。財産の原始的狀態を、社會學的、經濟學的の立場から縱横に論究せる本書は、社會問題に留意する人の必讀に値する絶好參考書である。大方諸賢の愛讀を待つ。

大好評姉妹五書

シュルツェ・ゲヴァニッツ著　佐野學譯　マルクスかカントか　定價二圓　送料十二錢

中日會議譯　過激派の本領　定價二圓三十錢　送料十二錢

フランツ・オペンハイマ著　岡上守道譯　國家論　定價二圓五十錢　送料十二錢

リー著　嶮峻義等譯　生理學上より觀たる勞働者問題　定價二圓五十錢　送料十二錢

テイラア著　新明正道譯　ギルド國家論　定價一圓九十錢　送料十二錢

東京市京橋區桶町　東京大阪三休橋南詰　株式會社大鐙閣發行　振替東京大阪三三六一八番　三七二一五五番

三田學會雜誌　第十五卷　第三號

論說

近時の物價政策論（一）

氣賀勘重

一

戰時に於ける急激なる物價の昂騰は社會各方面の人士をして非常なる生活難を感せしめたるのみならず、生活難の實なき人々にも其將來に關して非常の不安を感せしめたるものあり。由來物價騰貴は供給不足の徵證にして、戰時に於ける物價の暴騰も亦畢竟戰爭に基因せる需要の激增と供給の激減との結果に外ならず。從て所謂る生活の困難も其不安も供給の不足に對する不滿不安に外ならず。

縱令ひ或種の方策に依り物價の騰貴を抑制し得たりとするも此供給不足の事實存する限り社會全般に於ける此不滿と不安とは免れざりし所なる可し。然りと雖も各種の物價を均一に抑制するの困難否な其の殆ど不可能なるの事實と物價抑制に伴ふ非常なる弊害とは戰爭に伴ふ焦眉の急要と相待ちて、各國の當路者をして極端なる其抑制に躊躇せしめ、多少の調節を試みつゝ、然かも大體に於て物價の趨勢を其自然の推移に移せしめたり。其結果、供給の不足は經濟界自然の法則に從て物價の騰貴を致さしめ、生活難は此に先づ定額所得階級を脅かし勞働者階級を脅かし、遂次其威嚇を波及して遂に全社會の大部分を困難と不安に陷らしむるに至れり。世人が物價騰貴を目して此困難と不安の原因と認め、此原因だに除去せらるゝを得ば生活の安定期して待つ可しとの感を抱くに至る亦宜ならずとせざるなり。

是に於てか生活の困難と不安とを脱せんとする痛切なる多數民衆の欲求は一方に於ては斯る物價變動を生せしむる現經濟制度の不備を難じ、之が根本的改造を要求する各種の社會主義的議論の勃興と爲り、新舊幾多の「ユトピヤ」的社會制度の實現を唱導する者を生せしむるに至れると同時に又一方には一層實際的なる、各種の物價調節策を唱導せしめ、之が實現を當路者に迫るに至らしめたり。戰時以來今日に至りて尚ほ東西各地に跳梁せる各種の急進的社會改造論、急進漸進各種の改造運動を初として各種の物價調節策、需給調節策、貿易政策等、其の既に實施又は計畫せられ若しくは論議されつゝある戰時及び戰後の經濟政策は實に多くは如上の欲求に應じて起れるものたるなり。然り而して此等の議論並に政策を通覽すれば千差萬別其間に共通するの點頗る少なしと雖も、戰前に於ける議論及び施設に比して一般に經濟界に對する國家の干渉を要求すること甚だしきに至れるものあるの事實は之を認めざるを得ず。戰後の思潮が經濟界一般殊に私經濟に對する國家の甚深なる制馭干渉を是認し要求する其傾向は六七年以前の政策及び議論を顧る者をして實に隔世の感なきを得ざらしむるものあり。正に時代の一特徴といふ可し。

急進的議論を唱ふるの論者は勿論戰前と雖も多少實在せざりしに非ず。當今の所謂る新說新議論も其本を尋ぬれば多くは是れ數十年前甚だしきは數百年前

の舊說に外ならずと雖も、此種の議論が此の如く廣く多數の同情を博し、深刻なる干涉政策の廣く行はるゝを見たるは實に戰時以來のことに屬せり。而して斯る風潮を生せしめたる最大原因は言ふ迄もなく前述せる物價の急變に外ならざれども併し此風潮をして今日の如く一般的普遍的ならしめたるものは更に他の一原因の存するのもあり。戰時に於ける各國殊に歐洲列國の常規を逸せる經濟政策の實施即ち是なり。戰爭に基づく當面の必要、換言すれば戰勝を得んが爲めには何物をも犧牲とせざる可らざるの必要は開戰以來交戰各國の當路者を驅りて平時殆ど其實行の能否すら疑はれたる幾多の政策施設を實行せしめたるものあり。例令ば開戰最初に於ける彼の「モラトリウム」の如き、穀價、炭價等各種重要品の市價の制限又は公定の如き、各種日用品の輸出入に對する極端なる制限又は各種の重要產業に對する國家的管理の如き、將た或は食料品消費の制限、其他各種の消費に對する嚴重なる監督又は制限の如き、何れも平時に於ては殆ど想像だにせらるゝことなく、縱令ひ或は想像せられたりとするも之に伴ふ幾多の弊害と一般民衆の不平とは到底之が實行を許すの望なかりしものなるに、然るに此等の施設は戰時中著々として實行せられたり。之が爲に幾多の自由と幸福とを犧牲とし、幾多の經濟的秩序と安全を犧牲とするも戰敗の慘禍には代へ難しとして實行せられ、而して一般民衆亦戰時の必要として能く之を忍び能く之に堪えたり。斯る政策の爲に其經濟的困難を緩和せられたる一部階級の人々の之を歡迎せるは勿論、爲に大苦痛を感ずる階級の人々も亦能く之を忍べり。然かも斯の如く平時殆ど不可能視されたる幾多の施設政策の實際に行はるゝに至れるの事實は幾多の不平不滿の徒をして其不平不滿の解除の爲に種々なる理想案空想案を立てゝ之が實行を要求せしむるの導火線たらざるを得ず。隴を得て蜀を望むは人情の常なりとせば、既往幾十年間空想視されたる方策の實現を要求するの原因と爲るも亦決して怪むに足らざる可し。戰時に於ける極端なる經濟政策の實行は實に斯の如くして最近に於ける經濟政策に對する過大の信仰を惹起し、幾多の嶄新なる改造論を生むに至れるなり。

歐洲に於ける風潮に常に支配せらるるの狀ある我國近時の論潮を觀るに、又多くは經濟政策の效果を過大視せるものゝ如く、一切の不滿不安否な少くとも經濟

上の困難と不安とは殆ど悉く經濟的施設の改善改革又は經濟政策當局者の改更に依りて之を除去し得可く、今日幾多の困難と不安の存するは一に經濟的施設其宜しきを得ず當局者其人を得ざるの致す所と爲すの風あり。其狀恰も經濟界の推移變遷を以て例令ば飴細工の如く伸展屈折人爲の自由に左右し得可きものと爲すに似たり。是に於てか、米價昂騰すれば其引下策の實現を要求し、一般物價騰貴すれば其調節策の急を唱へ、不景氣襲來すれば失業者の救濟と產業救濟とを併せて絕叫し、而して各自何れも自ら努むるの前に先づ其施設を當路者に要求するに至る。而して其論潮より推究すれば勤勞せずして物資供給を潤澤にするの施設を要求し、勞苦なくして然かも無制限に各人の欲望を滿足せしむる方策の立案實行を要求するに至るも亦遠からざるやを想像せしむるものなきに非ず。

然れど吾人を以て之を觀れば是を明に經濟社會に對する一種の迷信、經濟政策の效果に對する一種の過信なり。經濟社會の組織は人間の性質と共に一種の歷史的產物なり。一切の人間を理想的に改造するの不可能なると等しく、理想的の經濟組織改造も亦不可能事なり。數百千年の進化を經て人間が理想的の人間となるの日あらば其經濟組織亦理想的なるを得可しと雖も、短日月の間に於ける其造は事實不可能なり。縱令ひ理想的の組織方策を案出して之が實現を試むるも其結果が遂に理想と全く相反するに至るは古來幾多の理想家の實驗に徵するも容易に之を知るを得可し。現代の人間を對象として人爲的施設の爲し得る所は僅に其自然の趨勢に多少の變化を與へ、理想の方針に向つて其進步發達を多少促進し得るに過ぎず。理想の實現は前途遼遠なり、而して進化の行程を經て初て之に達し得可きのみ。政策の效果は唯〻多少此行程を促進し得るのみ。之を是れ顧みずして一擧直に彼岸に達せんとせば建設の企畫は破壞の結果を生じ、改善の目的は徒に改惡に終らん。吾人は經濟政策に對する世人の過信の頗る危險なるものあるを覺えざるを得ざるなり。

現代の經濟組織を不完全とし徹底的に根本より之を改造せんとする幾多の理想的名案に就ては暫く之れを理想家の思索立案に委し、吾人は此に現社會制度の基礎の上に立ちて秩序的に之が改善を謀らんとする實際的政策論の中、物價の調節を目的とする近時の議論獻策に對して其究極の歸結と眞價とを略說せんとす。

一

由來經濟政策に關する各種の議論並に方策は當時不利不滿の地位に立てる人々に依りて唱へられ、其唱ふる所の手段方策は種々あるも目的とする所は一に其不滿不利を除くに在るを常とす。然れば戰時以來物價昂騰の際に於て盛に唱導せられたる議論政策は其昂騰の爲に不利益の地位に陷れる定額所得者並に勞働者の階級より出で、其目的とする所は給料及び賃銀の引上又は物價の調節にして、其の所謂る調節も上下兩極の中庸を得せしむるを目的とせず、實は引下のみを目的とするものなりしなり。曰く穀價調節曰く米穀の管理又は代價の公定曰く重要日用品輸出の禁止、曰く通貨の收縮、曰く何と、當時唱へられたる方策又は一部實施されたる施設は要するに何れも當時に於ける物價昂騰の趨勢に逆行して生活難に困める階級の困難を緩和せんとする物價引下の方策に外ならざるなり。然るに一朝反動の襲來に會して昨春以來一部物價の急落を現ずるや此に新に起れる議論方策は全く其性質を一變して直接又は間接に物價の引上を要求するものと爲り終れり。蓋し曩日の物價昂騰に基く生活難は一朝にして一掃し去られたるに非ざるも、物價一度其絶頂を超えて既に下降の趨勢に向へるの事實は少くとも將來に對する其不安を一掃せる上に、一部分の物價下落も多少其生活難を緩和せるものあり。從て縱令ひ自然の趨勢に委するも遠からずして多少の生活難の緩和を見る可く決して其難を加ふることなかる可しとの豫想は自ら物價引下策に對する熱望を冷却せしめ、其要求の聲自ら低きに至れるものあるに、然るに其一方に於て物價の急落に一大損失を蒙れる生産當業者は啻に其損失に苦むのみならず將來の希望益〻慘憺たるものあるを見て甚だしき不安を感ずるに至り、此不安を脱せんとして此に或は自ら種々の方策を講じ或は當路者に向て之が救濟を求むるに至りしなり。試に昨春以來各種の商人又は生産業者の或は實施し或は高唱せる所謂る不景氣救濟策なるものを見よ。曰く鐵商人の賣止同盟曰く紡績業者の同盟的操業短縮、曰く織物業者の同盟休業、曰く製糸業者の休業及び不賣同盟、而して最近に於ける帝國農會の所謂る米穀不賣宣傳亦正に其一に算するを得可し。此種の手段方策は何れも物價の下落を防遏し可及的之を高位に維持せんとするものにして、曩に調節論者の目的とせる所と正反對なる方針に出で、一度昂騰

せる物價は可及的之を維持し若し事情の許すあらば更に之を引上げんとするものに外ならざるなり。

然れど物價の引下といひ將た引上といふ。何にしても物價の調節は人爲的に容易に行ひ得可きものに非ず。物價の昂騰に際しては之に苦む者の囂々たる要求は恰も天下一般の聲たるが如く、而して之が爲に利益を享くる者の歡聲は多く聞ゆることなしと雖も、一朝實際に之が引下策の講せらるゝや、或は產業を阻害するものなりといひ、或は國力の發展を妨ぐるものなりといひ之に反對するの議論は騷然として勃興するを免れず。又實際に於ても一重要物品の價格引下は當該產業は勿論爾餘の產業にも甚だしき障害を及ぼすものなきに非ず。是れ民間の議論の囂々たるに拘らず、當路の政治家が常に其調節策の實行に怯懦なる所以にして、大正の初以來我が歷代內閣の施設も亦明に此事實を示せり。戰時中各方面に唱導せられたる幾多の物價調節策果して斯る反對又は障害なくして能く其目的を達し得るものありや否や。當時最も識見ある人に依りて唱へられ且つ最も公平に諸物價の上に調節の效果ある可しと認められたる通貨收縮策の如きも、若し實際に其主張者の熱心主張せる程度に之を敢行したりとせば、其結果は果して如何なりしなる可きか。昨春の急變以來各方面の商人及び生產者の間に勃興せる救濟の叫と其運動とは既に其當時に於て發生せざるを得ざりしなる可く、而して其原因が人爲的施設に出でし丈け其叫も運動も更に大なるものあるを免れざりしなる可し。其他の諸策に至りても主張者其人の多くは豫想せざりし意外の支障を生ぜしなる可し。吾人を以て之を觀れば歷代の內閣が一部論者の嘱望せるが如き物價の調節策を充分に敢行し得ざりしは寧ろ經濟界永遠の發達の爲に祝す可きことなりしなり。而して若し之を敢行し得たりとするも論者の期待せる如き良結果のみは實現せざりしなる可し。

昨春の財界變動以來新に起れる物價調節の議論及び運動も亦其方針こそ異なれ其性質に於ては殆ど之と撰む所あるなし。勿論、物價騰貴生活難の聲尙ほ世人の耳朶に新なるの今日、恰も當時と正反對の意味に於ける物價調節論の世間の同情を惹くものに非ざるは何人も熟知せる所、從て財界の反動に苦境に陷れる人士より出づるの議論、運動は敢て明白に物價調節を云爲せず、又物價の引上を絕叫す

ることなしと雖も、其目的とする所は結局同意義なり。曰く財界の安定の爲め曰く重要産業の維持救濟の爲め曰く國家的産業發達の助成の爲めと。而して此目的の爲に要求する所を問へば曰く、投賣防止を目的とする資金の供給、曰く操業短縮の同盟厲行、曰く内國産業保護を目的とする輸入の制限又は關税政策の實行と。要するに前年の物價政策論が消費者の見地に立脚して生活安定の爲に直接に物價の引下を要求したると等しく、最近の物價政策論は生産者の見地に立脚して産業安定の爲に協同一致以て供給の過剰を制限し、依て以て物價の下落を防ぎ或程度に高位に之を維持せんとするものに外ならず。之を自然の推移に委して下落の程度に達せしむるこそ正に物價當然の徑路なりとせば此等の下落防止策は即ち一種の物價引上策たるなり。

物價下落の防止策といひ或は物價の引上策といふ。何れにしても名辭の相違は吾人の此に問ふ所に非ず。最近に於ける物價政策の議論が物價の低落を阻止し之が引上を目的とする生産の制限又は供給の制限に在る次第は少しく注意する者の普く首肯する所なる可し。然り而して之を主張し若しくは之に贊同する者は正に之に依りて所期の目的を達し得可く、其策一度行はるれば産業の安定期して待つ可しと爲すこと、恰も前年の物價調節論者の希望期待に酷似せるものありと雖も、併し此種物價政策の效果に對して斯る過信を抱く者は惟ふに遂に失望して時の當路を怨むに至ること恰も當時の物價調節論者の如くなるを免れざる可し。

三

企業熱、投機熱に驅られて一度供給過剰に陷れる産業は結局供給の制限に依りて其平衡を恢復せざる可らず。政府當局の積極的干渉なく當業者の組織的行動なく、自由競爭場裡の自然の推移に委せらるゝ場合に於ては此平衡の恢復は自然的の供給制限に依りて行はる。即ち供給過剰の實一度暴露する時は供給者の競爭は激甚なる物價の低落を喚起し、幾多の生産者及び商人をして其損失に堪えずして或は廢業し或は倒産し、將た或は販賣又は生産を差控へしむるに至りて、此に一方には供給の減少を來たし下落に伴ふ需要の增進と相待ちて平衡の實を生ずるなり。即ち物價の下落は一方に於て消費者をして激減せる需要を恢復せしむ

るの手段たると同時に供給者に對して其供給制限を強要する自然の方策たるなり。然るに供給過剰の實暴露せる際に於ては消費者は通例將來の下落を豫想して著しく購買心を減じ需要は爲に激減するの常なるが故に、此激減せる需要を恢復せんが爲に非常なる物價の引下を行はざる可らず。又他の一方に於て供給者の販賣希望は著しく增加するが故に、此增加せる供給に應ずるの需要を喚起せんが爲には更に一層の物價引下を行はざる可らず。其結果所謂る財界反動に際しては物價は急轉直下實に非常の下落を爲すの常なり。然り而して此急轉直下の暴落の趨勢こそ正に購買希望者をして一時其需要を差控へしめ需要の激減を來たして供給者の大苦痛を加へしむるものなるが故に、經濟現象に對する供給者の智識漸く加はるに從ひ、供給者互に一致團結して或は一定代價以下の賣止を協定厲行し、或は當路者を强要し資金の融通を謀りて薄資者の投賣を防止し、或は同盟休業又は操業短縮を實行し將た或は關稅政策に依りて外國競爭品の侵入を防ぎ以て一方には實際に供給の制限を謀ると共に又一方には需要者をして更に一層の市價下落に對する希望の空なるを悟らしめ其需要を恢復せしめんとするに至る。

換言すれば物價の暴落を自然の推移に委することなく、當業者團結の力又は政府の援助に依りて供給の制限を行ひ以て物價の維持又は向上を謀らんとす。是れ即ち人爲的の供給制限策にして最近の財界安定策又は財界救濟策なるものは皆此類なり。

物價の引上を理想とする以上、供給の制限は其目的を達する最良の手段なり。物價が需要と供給の關係に支配せらるゝ限り、供給の減縮は必ずや其騰貴を促すの結果なきを得ず。勿論物品の種類に依りて其需要の彈力に强弱の差あり。從て一定率の市價向上を促すが爲に必要なる供給制限の程度も物品に依りて種々異なる可し。例令ば我國に於ける米穀の如く必需品にして然かも他に類似の代用品なき物品の場合には一割乃至二割の供給制限は以て其市價を數割乃至十數割騰貴せしむるの效果ある可く、之に反して奢侈品又は粧飾品若しくは必需品中にても容易に他に代用品を求め得るが如き物件は其一大部分の供給減少も甚だしく市價を引上ぐるに足らざる可し。故に供給の制限に依りて市價を引上ぐるの政策も物品に依りて其效果に大小の別あり、從て一定の目的を達せんとする其

策の實行にも難易の別ある可しと雖も、併し適當なる程度に其制限を敢行する以上、市價の下落防止又は向上促進の爲に相當の效果ある可きは復た疑を容れざるなり。

然りと雖も供給は市價を決定する唯一の原動力に非ず。如何に供給を減少するも購買希望者の支拂能力を超過する市價引上は到底之を實現し得可きものに非ず。獨占業者の市價決定權を制限するものは實に需要者の此購買能力なり。供給者如何に鞏固なる團結を利用するも政府如何に市價の引上を策するも到底超越するを得ざるものは實に需要者の此の購買力なり。故に需要者の購買能力にして實際に著しく減退したるあらんか、供給の大なる制限も容易に代價下落の趨勢を阻止し若しくは其向上を促すを得ざる可し。此點より觀れば財界反動の際に於ける市價の低落が一部需要者の所得減退に基づく限り其恢復は永久に至難なる可きも、其需要の減退が將來の下落を豫想せる多數人士の購買差控に基づく限り適當なる供給制限に依りて需要の恢復を喚起するに難からざる可し。換言すれば反動期に入れる一部產業の緊縮と之に伴ふ從業者の所得減少とに出づぬ購買力の減少程度に準じて其購買物件の需要は減少す可く、從て其程度に準ずる市價の下落は永久に同程度の供給減縮を行はざる限り到底免るゝを得ざる可しと雖も、此程度を超えて更に著しく市價の暴落するは畢竟實際に購買力の減少せるが爲に非ず、購買者の一時的躊躇の爲に購買力激減の觀を呈するに過ぎざるが故に、供給者に於て恐慌以て捨賣の態度に出で供給の一時的過剩を實現せざる限り其需要は遠からずして相當の程度に恢復し來る可く、市價の暴落は從て免るゝを得可きなり。

依是觀之、單に人心の恐慌に基づく市價の下落は適當なる供給制限に依りて之を回避し得可しと雖も、實際の購買力の減少に基づく下落の趨勢は到底一時的の供給制限に依りて之を阻止し得可らざるを知る可し。人爲的の供給制限は勿論一時之を阻止するを得可けんも、結局は其供給者の一部分の廢業轉業又は倒產に依り永久に供給を減ずるの外なかる可し。此點より觀れば我が內地米の如く其需要者の購買力に殆ど何等の著しき減退ありたるに非ず唯單に無比の豐年といふ一時的の供給過剩の爲に下落せるに過ぎざるものは相當の供給制限策に依り

て、其市價の暴落を阻止すること甚だしく困難ならざる可きも、生糸、綿糸布等の如く海外の購買力減退に基ける市價の暴落は其阻止遙に米價の場合よりも困難なるを免れざる可し。蓋し其供給は我國に於て之を制限するも外國の供給の多少之を補充するものある上に、海外諸國の購買力減少が果して一時的のものなるや否や頗る疑はしきものあればなり。帝蠶會社の千五百圓維持の目的の能く貫徹し得可きや否やは繫りて米國其他の需要減退が事實一時的にして此市價に於ける購買力の實際減少せるに非ざるや否やに在りて存せり。此點に於ては生糸業者の不賣同盟は農會の不賣同盟よりも成功の望少なきものといはざる可らず。若し農會の不賣同盟實際に效果劣れりとせば其原因は他に在りて存せるなり。

希臘に於ける貨幣及び利子學説

高橋誠一郎

一

ソクラチーズ學派の貨幣に關する意見は、一方に於て、其の交換の要具たる職能を是認すると同時に、他方に於て、之れを徴利貸借の目的に供用するを拒否するに存す。貨幣は本來手段にして目的に非ず、彼れ等は交易に使役せらる可き奴隷をして主たる目的の地位を簒奪せしめ、吾人を支配する僭主たらしむることを禁壓せんとせるなり。

既に國家の始源に關して、一種の經濟史觀を有したるプラトーンは（三田學會雜誌第十四卷第十三號所載拙稿「プリストオテリーズの奴隷制度論」參照）、又た吾人が市府を形成し、社會を確立せる目的たる、市府其の者の内部に於ける、各自の所産の相互交換は、明かに賣買の手段に依るものなりと觀たり。是に於て乎、市場、及び交